

新発田歩兵第百十六聯隊奮戦記

【第10回】宜昌北方作戦

新発田駐屯地援護室 佐藤 和敏

昭和十六年七月、宜昌作戦終了以来殆ど一年近く鴉鵲嶺或いは紫金嶺と、治安の維持に任じ、討伐の傍ら訓練に訓練を重ね鋭意戦力の高潮を計っていた我が聯隊は、師団命令により第一大隊・第三大隊（第九中隊欠）・聯隊機関銃・聯隊砲・歩兵砲を以って早淵旅団長の指揮下に入り、宜昌北方地区の敵陣地に対し一大痛撃を加えるべく今次作戦に参加、譚家以北に集結を命ぜられた。

第三大隊は二十五日一九〇〇董市を、聯隊主力は二十六日〇五〇〇紫金嶺を、第一大隊は二十六日一七〇〇高家店を夫々出発した。

二十七日、龍泉舗に於いて先行し敵情地形を偵察中なりし聯隊長の指揮下に入り、第二・第七中隊を旅団予備とし同地に残置、一四〇〇何家冲附近に集結し左翼隊右第一線となり直ちに山砲大隊と協定、第一大隊を左第一線、第三大隊を右第一線として攻撃を準備、一七〇〇砲兵の射撃と開始と同時に先ず徐真厖三角山の敵陣に対し一斉に攻撃前進を開始した。

敵は中央直系軍、中にも名だたる第十三師にして、天嶮に抛り鹿砦を廻らし掩蓋を構築、火器を羅列して我を待つ。

我が第一線は緊密なる歩砲共同の下遂次敵陣に肉薄、一七四五第一大隊は白刃を振るって徐真厖を奪取。第三大隊又重火器の機を失せざる射撃により、一八〇〇勇躍徐真厖東方三角山高地を占領。爾後敗敵を追尾し薄暮を利用して直に戦果を拡大。第一大隊は更に夜襲を以って大金山の一角を占領した。

聯隊は此の夜、大金山東南側附近に於いて翌黎明攻撃の準備をしつつ夜を徹し、終夜第一大隊正面に敵の逆襲激烈を極めれど、其の都度手榴弾戦の後之を潰走させた。

二十八日朝来、第一大隊を大金山に展開して前面（北側）高地を攻撃した。敵は制高の利を占め、迫撃砲及び重火器の集中火を以って我を阻止した。特に大金山北側高地及び西北高地より管制射撃激烈にして、遂に第一線にありて率先陣頭に立ち、勇躍部下を指揮していた第一大隊長村田少佐及び聯隊機関銃中隊長大木大尉、第一大隊副官佐藤少尉相次いで壮烈なる戦死を遂げ戦況意の如く進捗せず。聯隊を大金山上に推進、敵を制圧すると共

に第三大隊に大金山北方高地を攻撃させた。

第三大隊は尚熾烈なる敵火を冒し、突兀たる岩山を攀じり手榴弾戦を演じつつ遂に一一一五該高地を占領した。聯隊長も又直に軍旗を奉じて同地に進出、旅団命令に基づき敵情地形を搜索すると共に爾後の攻撃を準備した。俘虜の言によれば敵は当初真面目の抵抗をしたが、我が猛攻に撃破され主力は今朝来退却を開始せりと。

聯隊は二十九日、此の巍峨たる岩石の山頂に山砲・迫撃砲を推進する等極力明日の突進を準備した。

三十日、聯隊は主力を以って前面の敵を撃破し江家坡に突進、一部を以って四界坪北方高地を奪取し左第一線の攻撃を容易にすべく旅団命令に基づき〇六三〇右に第三大隊、左に第一大隊を展開、夫々第一線とし重点を右に保持しつつ、先ず泉古洞南側高地に向い攻撃前進、山砲・各種重火器の総合火力を最高度に発揚して猛攻を開始した。

折から海軍機三機飛来、我が戦闘に協力、諸所に歩砲飛の緊密なる共同の下、壮烈なる立体戦を演じ〇七三〇第三大隊は勇躍該高地を占領、算を乱して潰走する敵に猛射を浴びせ之を潰滅した。第一大隊も又右に連繫し〇七〇〇四界坪北方高地に突入、同地附近を掃蕩したるも左翼隊の左第一線たる歩兵第五十八聯隊第二大隊と連絡取れず、〇七三〇聯隊攻撃方向の常家嶺に向い進撃した。

敵は我が痛撃により多大の損害を受け、全面的退却を開始せりとの情報に接し、敗敵に追尾して一挙に突進すべく第三大隊を追撃隊として、一八〇〇風渡河の線を出発、江家坡に向い敵を急追させた。一九〇〇常家嶺附近にて敵の抵抗を受け、直に之を攻撃、配属山砲の射撃に膚接しつつ戦果を拡張し、常家店附近に進出、敵と対峙しつつ夜を徹した。

三十一日、第一大隊を第三大隊の左に展開して前面の敵を攻撃、〇六〇〇山砲・重火器の射撃と共に第一線両大隊は敢然として猛進、〇七四〇相前後して常家嶺の一角を奪取した。

常家店は敵第十三師・第三十七团团本部の所在地にして、四囲重壘たる山地廻り、剩え険峻を利用して堅固なる既設陣地あり、力攻に次ぐ力攻を以って第三大隊は一五〇〇遂に常家嶺一帯を占領した。

依って聯隊は第一大隊の一部をして、附近の要点を確保し直に敵を急追、董家冲に突進。

第三大隊は依然追撃隊となり急進、途中微弱なる敵の抵抗を排除しつつ一日〇三〇〇楊家店に侵入。聯隊は該地附近にて明日の行動を準備しつつ露營した。

明けて八月一日、聯隊は〇八〇〇行動開始、楊家坂・江家坂七里埡附近の掃蕩を実施した後旅団命令により兵力を集結、聯隊本部は均田埡に位置し第三大隊を以って董家冲附近の要点確保に任じ、第一大隊をして三角点四二一高地及び西方高地を占領して、特に射撃を以って歩兵百三旅団(右翼隊)の黄家場附近に於ける兵力集結を容易ならしめ、此処に於いて山砲・迫撃砲の配属を解かれた。

二日、第三大隊をして附近軍事施設を徹底的に破壊すると共に、依然右翼隊の黄家場以南集結行動を容易にする為、右翼隊に追尾する敵密集部隊を砲射撃し之を潰走させた。夜と共に両大隊正面に対し、数次に亘り敵の襲撃あり。其の都度火力と白兵力により之を潰滅した。

三日、昨日に引続き附近要点を確保すると共に、南下中の右翼隊の集結行動を容易した。先に敗退した敵は、長橋溪右岸に兵力を集結し我が右翼を包囲する如く遂次南下中の模様、聯隊は旅団命令により一部を以って珠寶山を確保すると共に、配備の一部を変更し益々警戒を厳にして夜を徹した。

四日、新たに歩兵第五十八聯隊第二大隊が配属され、一部を以って現在地附近を確保し、主力を以って両河口確保の命を受け、現在地は第三大隊に守備させ、第一大隊主力を右第一線、第五十八聯隊第二大隊を左第一線として展開。

重点を右に保持し〇八四〇攻撃開始、一〇〇〇宋家湾を奪取し引続き前面の敵を力攻中、一七〇〇旅団命令により第五十八聯隊第二大隊の配属が解かれ、両河口東側稜線を確保するに決し、第三大隊を楊家店の三角点四二一高地附近に展開、右第一線とし第一大隊を其の左に展開、両河口に突進した。

東方及び西方よりする敵の十字火を冒し、二三〇〇第一中隊は夜襲を以って両河口東側稜線を奪取し、第一大隊主力は丁家湾東側稜線を確保した。

五日、引続き第一大隊を以って攻撃続行、尚尾崎中隊をして宋家湾附近を掃蕩させ、珠寶山を確保中の第三中隊は第五十八聯隊第二大隊と交代帰来した。聯隊は爾後行動の自由を得るため、尾崎中隊に密湾嶺東南側高地を確保させ、主力は現在地附近の要点を確保して爾後の行動を準備した。

六日一二〇〇命により反転を開始、途中大なる敵の妨害も無く関庄場に到着、地域の戦場掃除を実施しつつ、折からの降雨を冒して七日〇一二五龍泉舗に集結、現態勢復帰を命ぜられ二〇〇〇高家店に到着、態勢復帰した。

八日、紫金嶺部隊を第一梯隊として〇六三〇、第三大隊を第二梯隊として〇七〇〇夫々高家店を出発し紫金嶺に向った。

梯隊の先頭、黄龍寺附近に達するや、チェッコ(軽機関銃)三を有する約三～四百の敵と衝突、梯隊は直ちに展開し右より第二・第一・第七中隊を第一線とし、重火器の射撃と共に敵を包囲攻撃した。

一〇三〇頃敵は、東方及び東南方に退却を始め、部隊は機を失せず善溪大冲に沿って之を追撃した。此の間第二梯隊は駄馬を伴い指揮して紫金嶺に先行、一七〇〇同地に到着した。

一三〇〇敵は再び兵力を増加し、観音寺北方高地に抛り抵抗を試す。敵火熾烈にして前進意の如くならず、聯隊は一挙敵陣中央を突破し之を撃破すべく兵力を転用、一九〇〇第一線中隊は折からの薄暮と、にわか雨とを利用して一挙に敵陣に突入、遂次戦果を拡張し敵を潰走、爾後直ぐに兵力を集結、車軸を流すが如き大雷雨の中を紫金嶺に向い前進、或いは転倒し或いは流水中に転落するなどの難行軍を冒して、九日〇五三〇紫金嶺に到着した。

軍旗奉拝及び聯隊長訓示の後、原態勢に復帰した。第三大隊は〇八〇〇紫金嶺出発、一二二五董市に到着し原態勢に復帰した。

斯して約二週間に亘る作戦も終了。各隊は出動前の警備任務を続行すると共に、もっぱら来るべき作戦に備え準備の完璧を期した。

(参考文献「聯隊歴史 歩兵第百十六聯隊」より)